

4月の銅マーケットレポート及び5月の見通し(下)

橋本アルミ(株) 橋本健一郎氏



予想レンジ	
LMEセツル	4700-5000ドル ☂ 弱い
建値	540-590円 ☂ 弱い
為替	105~110円 (1か月間TTM) ☂ 円高

※平成28年5月20日付掲載記事の続きとなっております。

【自動車販売】

3月の国内自動車販売台数(軽は除く)は21万2713台で前年比+7.2%。

3か月ぶりプラス

内 乗用車	+8.4%
貨物	-0.4%
バス	+13.2%

【住宅着工数】

・平成28年3月の住宅着工戸数は75,744戸で、前年同月比で8.4%増となった。また、季節調整済年率換算値では99.3万戸(前月比2.0%増)となった。

・利用関係別にみると、実数値では、前年同月比で持家、貸家、分譲住宅ともに増となった。また、季節調整値については前月比で持家、分譲住宅が増、貸家が減となった。

・住宅着工の動向については、平成26年4月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響からの持ち直しが見られた後、前年同月比で横ばいの傾向となっていたが、足下では3か月連続での増加となった。

・引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

(持家)

前年同月比では2か月連続の増加(前年同月比4.3%増、季節調整値の前月比では4.6%増)。

(貸家)

前年同月比では5か月連続の増加(前年同月比1.1%増、季節調整値の前月比では4.4%減)。

(分譲住宅)

前年同月比では2か月連続の増加(前年同月比26.0%増、季節調整値の前月比では12.5%増)。

(分譲マンション)

前年同月比では2か月連続の増加(前年同月比49.0%増)。

(分譲一戸建住宅)

前年同月比では5か月連続の増加(前年同月比8.0%増)。

【伸銅品生産】

伸銅品生産 前年比-1.6%の6万8610t 13か月連続マイナス

内需 5万7794t +0.5% 2か月連続プラス

輸出 1万816t -11.6% 12か月連続マイナス

銅条 20,562t -4.9% 10か月連続マイナス

黄銅棒1万6926t +10.8% 5か月連続プラス 底入れの兆し?

【電線】

前年比-2.5%の60900t

うち 国内 -1.6% 輸出が -21.3%。

通信 -52.8%、電力 +10.2% 電気機械 -2.9% 自動車 +4.1%

建設電販-2.3% その他内需+2.8%

【輸出】

電気銅輸出が前年比-3.2%の5万5218t。

銅スクラップは+0%の2万4918t。

【輸入】電気銅が-38.6%の2150t。

スクラップは+39.2%の9760t。

【見通し】

・自動車は生産が+1.2%。3月の国内販売台数が前年比+7.2%

生産が4か月連続ぶりプラス、販売が3か月ぶりプラス。

生産、販売共にプラス 販売に至っては大幅増!

新年度入り後の動向に注目

・住宅着工の動向については、平成26年4月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響からの持ち直しが見られた後、前年同月比で横ばいの傾向となっていたが、足下では3か月連続での増加となった。

・引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

・伸銅品 13か月連続マイナスの前年比-1.6%。

需要の多い銅条が、10か月連続マイナス。黄銅棒が5か月連続プラス、輸出も前月に続き減少が続き12か月連続マイナス。

黄銅棒が4か月連続でプラスに転じ、1万6千t台を回復、今後の回復が望まれる。

・電線 輸出が9か月連続二桁減少の—

21.3%。内需は+2.8%

・銅輸出は生産増加による国内玉の需要増加から地金、スクラップ共に減少

・銅輸入は、生産減少による国内玉の需要減から地金は減少スクラップは内需の発生難から増加した。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は、GW休暇前に銅建値が60万円台にのっていたことや休み中のリスク回避から売られ流通在庫はほとんどないのではないかとまた引き続きほとんどの分野で生産減の現象が続いており発生難の状況が続いている。

自動車、住宅の販売が多少上向き需要増が予測され需給はひっ迫するのではないかと？

【価格・為替予想】

今月は、原油と中国の景気対策に左右される。原油に関しては1月の増産凍結水準は原油の需要が多い夏には実質100万バレルの減産規模に値すること、国際エネルギー機関（IEA）が12日公表した5月の月報で、需給の改善を背景に年後半には世界の原油在庫が「劇的に削減される」との見通しを示したこと、山火事のあったカナダで生産が完全に回復するには時間がかかるとみられるほか、リビアやナイジェリアでの供給不安が出てくることから45-50ドルで推移するのではないかと？

中国の景気対策に関しては、中国国家発展改革委員会が4月に総額213億ドルの固定投資資産プロジェクトを承認したとの発表した。今後も相次いで発表される可能性も高いのではないかと？それらを踏まえた5月の銅価格は、原油の需給が現状程度で引き締め45-50ドルで推移し、中国の景気対策の効果が出てきた場合、4月高値の一段高5000ドルを予測。いずれかの場合は4800ドル。

下値はいずれの条件も達成できなかった場合3月もう一段安値の4700ドル。

為替は、新規材料難の中、米経済悪化を防ぐための米利上げ観測の後退や、G20の流れを受けての介入がしにくい現状や追加的な金融緩和策が難しいことから円高が続くのではないかとそれらを踏まえ予測は

上値は日本が何らかの為替対策を結果的に一切行わず、米利上げ観測が後退した場合105円台（TTM）を予測。下値は、日本がさらなるマイナス金利策や為替介入などを行い、米利上げ観測が前進した場合、110円を予測。

銅建値に関しては540-590円程度と予測している。

沖電線 次世代インターフェース対応「CoaXPressケーブル」を開発

沖電線株式会社（社長・来住 晶介、本社・神奈川県川崎市）は、画像検査装置などのマシンビジョンシステムに使用される次世代インターフェースCoaXPress規格（1本のケーブルで最高6.25Gbpsの高速通信が可能）に対応した最大25Gbpsの高速伝送を可能とする「CoaXPressケーブル」を開発し、2016年5月20日より販売を開始すると発表した。

画像検査装置などに搭載されるマシンビジョンシステムでは、被対象物の微細化に対応するために画像の高精細化と、タクトタイムの短縮に向けて、画像伝送の高速化が進んでおり、現在、マシンビジョン用インターフェースとして普及しているカメラリンク規格（6Gbps）を上回る、最大25Gbpsの高速伝送が可能なCoaXPress規格が、次世代インターフェースとして注目されている。

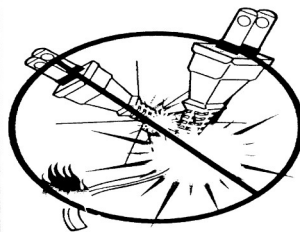
沖電線ではCoaXPress規格の今後の普及を見据え、新たなマシンビジョン用インターフェースケーブルとして「CoaXPressケーブル」を開発した。多様なユーザーニーズに対応する商品ラインアップとして、伝送性能に優れた「標準タイプ」と狭スペースでの配線に適した「細径タイプ」をベースに、それぞれコストパフォーマンスに優れた「固定配線用」と曲げや捻りに対して優れた耐久性を備えた「可動配線用」を販売する。

「標準タイプ」は、15m以上の長距離伝送が可能で配線が長くなりがちな液晶検査装置などの大型機器に適し、「細径タイプ」は、「標準タイプ」に比べ約40%の細径化（同社比）が図られており、配線スペースが確保しにくい小型機器へも使いやすい仕様となっている。また、産業用機器に搭載されるマシンビジョンシステムでは被写体に合わせてカメラが移動する機構を備えることが多く、ケーブルに可動耐久性が求められるため、このニーズに対応した「可動配線用」を用意した。

タイスパーク 電線

スパーク対策電線

特許出願中



「安心・安全を追求する」
行田電線のごたわりが、
電源コードのスパークによる
電気火災・火傷事故を
防止するタイスパーク電線を
開発しました。

ここが違う

- ① スパークによる熱を絶縁体が吸収し、発火をおよぼさる特殊設計。
- ② 導体が断線したとき発生するスパーク（火花）に対する強度・20倍以上
当社一輪電線



行田電線株式会社

http://www.yukita.co.jp/
本社 大阪府城東区吉市1丁目2番11号 TEL:06-6933-5811 FAX:06-6934-7335
東京支店/東京都新宿区西新宿2丁目16番13号 TEL:03-3365-3625 FAX:03-3365-3626
海外営業所/香港・上海・シンガポール
海外工場/上海・漳州